# Packet Tracer - レイヤ 3 スイッチを設定する

## トポロジ



アドレッシング テーブル

デバイス	インターフェイス	IP アドレス	サブネット マスク
R1			
MLSw1	G0/1		
	VLAN 1		

#### 目的

パート 1:現在のネットワーク設定の文書化

パート 2:新しいマルチレイヤ スイッチの設定、導入、およびテスト

### シナリオ

ネットワーク管理者が、現在のルータとスイッチを新しいレイヤ3スイッチに交換しています。スイッチを設定してサービスを稼働させるのは、ネットワーク技術者であるあなたの役目です。業務がなるべく中断されないように、営業時間後に作業を行います。

**注**:この課題は 8/100 点から始まります。これは、PC のデバイス接続が得点に加算されるためです。これらの接続は パート 2 で削除して復元します。接続を正しく復元したかを確認するため、そこで採点されます。

## パート 1: 現在のネットワーク設定の文書化

注:通常、実稼働ルータには、単なるインターフェイス IP アドレスよりもはるかに多くの設定があります。ただし、この 課題を迅速に進めるために R1 にはインターフェイス IP アドレスだけが設定されています。

- a. **R1** をクリックし、[**CLI**] タブをクリックします。
- b. 利用できるコマンドを使ってインターフェイスのアドレス情報を収集します。
- c. アドレッシング テーブルの情報を文書化します。

パート 2: 新しいマルチレイヤ スイッチの設定、導入、およびテスト

#### 手順 1: MLSw1 を設定して R1 のアドレス計画を使用します。

- a. MLSw1 をクリックし、[CLI] タブをクリックします。
- b. GigabitEthernet 0/1 のインターフェイス設定モードに切り替えます。
- c. no switchport コマンドを入力して、ポートをルーティング モードに変更します。
- d. IP アドレスを R1 GigabitEthernet 0/1 と同じアドレスに設定し、ポートをアクティブ化します。
- e. interface VLAN1 のインターフェイス設定モードに切り替えます。
- f. IP アドレスを R1 GigabitEthernet 0/0 と同じアドレスに設定し、ポートをアクティブ化します。
- g. 設定を保存します。

#### 手順 2: 新しいマルチレイヤ スイッチを導入し、接続が復元されていることを確認します。

**注**:次の手順は通常、数時間後、または実稼働ネットワークのトラフィックのボリュームが最も小さいときに実行します。 ダウンタイムを最小限に抑えるために、新しい機器は完全に設定し、導入の準備をしておく必要があります。

- a. 画面の空いているスペースをクリックし、すべてのデバイスの接続を解除します。
- b. 削除ツールを使用してすべての接続を削除するか、単にR1、S1、およびS2を削除します。
- c. 次を実行するための正しいケーブルを選択します。
  - MLSw1 GigabitEthernet 0/1 をエッジ GigabitEthernet 0/0 に接続する。
  - PCを MLSw1 のファスト イーサネット ポートに接続する。
- d. PC すべてが 192.168.0.1 のエッジに ping を実行できることを確認します。

注:オレンジ色のリンク LED が緑色に変わるまで待ちます。